

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-20585

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)2月20日

E 05 B 73/02
A 47 G 25/12A 8810-2E
7137-3K

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 考案の名称 傘保管用具

⑯ 実 願 平2-60640

⑰ 出 願 平2(1990)6月11日

⑱ 考 案 者 西 尾 年 之 東京都港区南青山3-14-13 ツイン南青山ビル 株式会社
シー・エフ・アイ内

⑲ 出 願 人 株式会社シー・エフ・アイ 東京都港区南青山3-14-13 ツイン南青山ビル

⑳ 代 理 人 弁理士 倉内 基弘 外1名

㉑ 実用新案登録請求の範囲

傘の柄の一部分を固定保管するための傘保管用具であつて、

傘の柄の一部分を挿入し得る縦方向凹所を具備し、該縦方向凹所の概略中央部分にはその横断方向に開口する長孔を設けた支持部材と、

前方部分及び後方部分を有し、その概略中間位置に於て、前記後方部分が前記長孔を横断方向に貫通して廻動し得るように取付けられ、前記前方部分及び後方部分間には前記傘の柄の一部分を受入れるための湾曲形状部分を有している傘保持部材と、

該傘保持部材の前記後方部分と係合しこれを錠止するための錠止部材とを包含し、

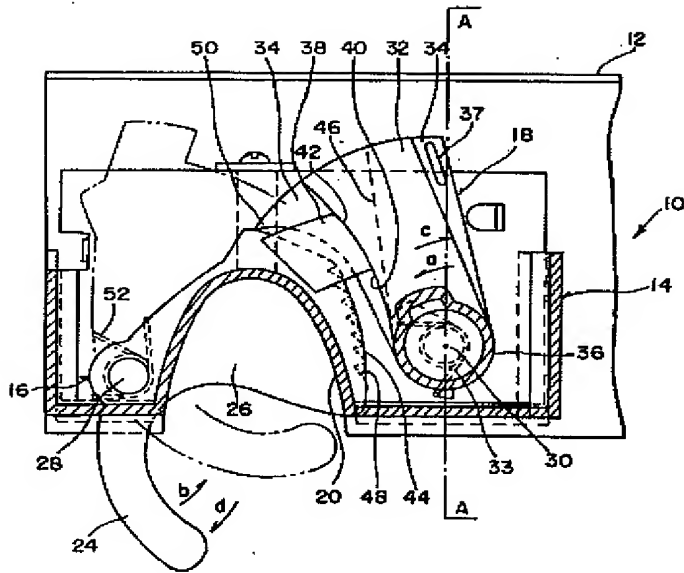
前記傘保持部材の前記後方部分には前記錠止部材と可変段階的に係合するための鋸歯状の係合手段が設けられている前記傘保管用具。

図面の簡単な説明

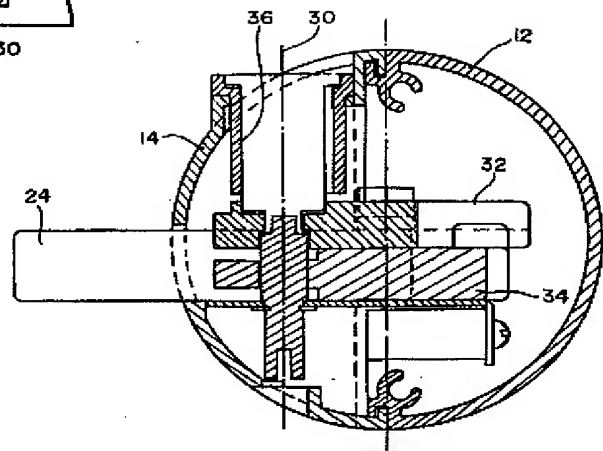
第1図は本考案に従う傘保持用具の、部分的に

断面で示す平面図である。第2図は第1図の傘保管用具を線A-Aで切断した断面図である。第3図は第2図を線B-Bで切断した断面図である。第4図は本考案の傘保管用具の、特定位置における施錠状態を例示する第1図と同様の平面図である。第5図は従来から使用される傘保管用具の平面図である。尚、図中主な部分の名称は以下の通りである。

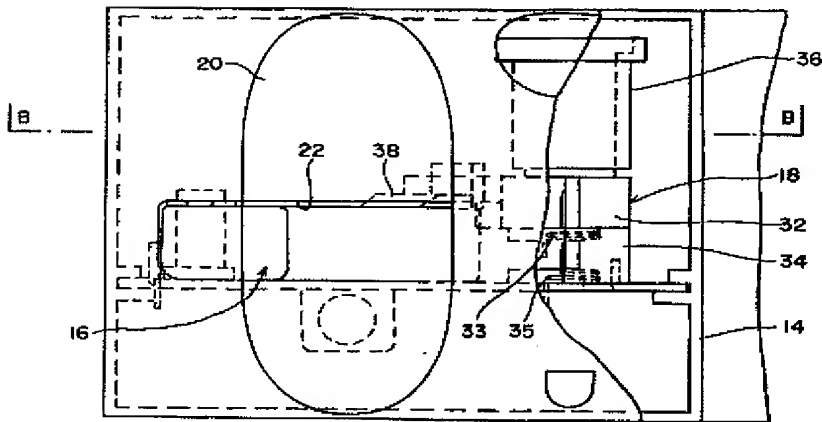
10……傘保管用具、12……取付け部材、14……支持部材、16……保持部材、18……錠止装置、20……縦方向凹所、22……長孔、24……前方部分、26……後方部分、30……軸線、32……上方部材、34……下方部材、36……錠止装置、37……突起、38……突出部材、40……湾曲面、42……摺接面、44……後端縁部、46……アンダーカット面、48……鋸歯状部分、50……尖端部分、52……ばね。



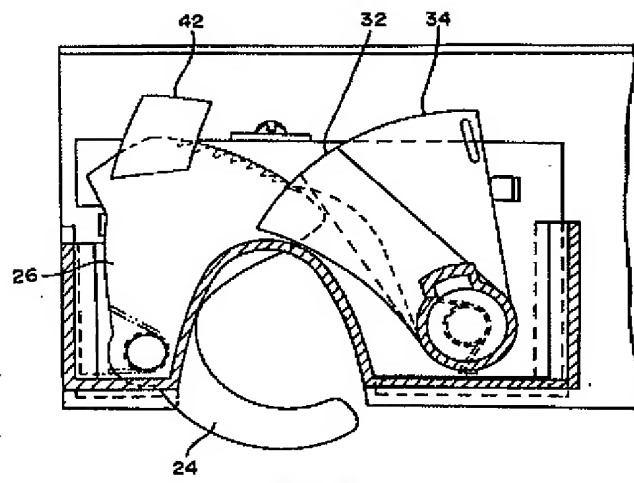
第1図



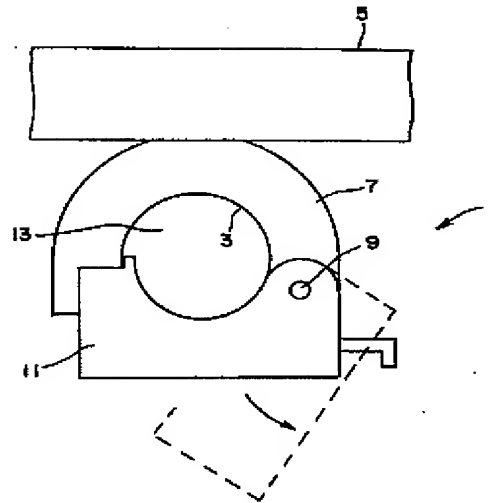
第3図



第2図



第4図



第5図